

明治三十五年

京都西本願寺浦潮出張所
ニ關シ在全地帝國貿易事務
官ヨリ稟請一件

外務省

3-2429

0059

明治五年四月廿三日接覽

主務通商局

年一〇二〇

五一九三號

西本願寺浦潮土張所之請
前請、件

京都西本願寺之夙ニ寺地ニ僧侶ヲ派ル
専ラ寺地方立留日非人、傳道ニ從事
セシメタルヲ以テ前任濱易事務官ニ於テモ
駐在僧侶ニ對シテ常ニ相考ノ尊敬ヲ拂ヒ
且、布教傳道ニ必要ノ封中助ヲ以テ
來、日非山寺地ニ張所ニ寺境ニ勾繪
遠、西比利由地ニモ多ク教ノ信徒ヲ有ル
ニ至リ寺境信徒ニ多額ノ金貨ヲ曝集
シテ煉化屋一棟ヲ新築シテ學校公設

在浦潮土本買賣物事務館

教場ニ送ル等信仰歸依不殊、其ニ
小僧ニ於テモ在留民ノ信仰ニ道義心
ヲ維持計ルニ僧侶ノ傳教ニ依ルニ由
要ヲ認メ、填テ日一方針ノ下ニ必要ノ帮
助ヲ與フル等ノ努力ヲ爲ルニ在院教
場契約期限ニ今後二年解ツ以テ
終了ニ後、該教場地主ノ所為ニ由
屋、タルノ以テ、（註）外國人ノ土地所有權ヲ許サザルニ由テ
地ノ租借ノ期限多ク、該家屋ノ建築スルニ期限ヲ先ツテ數
ニ地主ニ歸スルノ習慣ナリ、寺境信徒
該院教場存続、必要ヲ認メ、若年我月
中口寺派去員村井選激及信徒縁代
上京ニシテ更ニ前記地所家屋、長期借
入及後資金ノ付付ヲ非山ニ申請、未右情

料一切有願寺ニ於テ負擔スル事ト相成
 別紙第一号ノ馬ノ通リ金五千圓ト付テ條
 賣買契約ニ其ノ諸件ニ因テ
 本會及右買入ニ對スル砂金ニ本會
 定期集會ニ提ルニ其積積ヲ得ル
 可致者ト本山教務局ヨリ各地信徒
 世話係一曰、申抵ニ又本會ニ對シテ已
 右地所屬屋借入契約ニ關シテ指揮
 左カ方別紙第二号ノ馬ノ通リ作頼
 有ルニ付香港信徒一曰、本山ノ恩遇
 ニ感ニ深ク滿志ヲ表シ右ノ以テ故
 最初五千圓ノ付金ニシテ契約
 成ニ覺束ナリ頗ル困難ノ事情有ル

在滿洲日本貿易事務館

獲得セシ世話係一曰執心ニ尽ルカニ其ノ事
 ニ於テ也右者ノ助力ヲ加ヘテ結果地ニ
 ニエシヨリコト氏ニ於テハ最初五千圓ノ積
 約金ヲ領收シ殊額参考万五千圓ノ
 由一五五年間ニ若年十月中廿五圓
 本會三年中本會ノ條件ニ以テ
 二十五年間貸後ノ裁ク番諾シ若
 年十月中貸借ニ双方老解ト出
 頭ニ本會三會ノ契約締結
 此方ニ有ルニ於テ右借料ヲ二期
 本會ノ借料三期本會金ヲ也一期ニ
 納入ルニ得ル本會地所屬屋借ト也
 (他建物) 悉皆右者ノ権利ヲ得ル

便解 少ナラサレニ甘地行徒、特別
 支出ノ義ヲ由山ニ請テスルノ儀儀
 ヲ遂々長年十月再ニ書井選徴ヲ
 上京セシメタルニ曰人、未タ歸來セザル由
 同由山ヲ特派シテ是利義利未達
 一上月二期耕田金、曰存山ヲ支出スル
 才三期耕田金ニ悉皆行徒ノ負担ニ
 歸セシムルニナル者、其行徒ニ宣テ
 右ニ長年三月廿五日以テ申付
 カキ地行徒世話係白(申付)ニ
 事次ニ及シ(別紙附)左記行徒ガ
 其ノニ多ク歸來セザリトコトナラシ
 一同を感テ、君ニ行徒、最初ヲ其
 負担ノ責ヲソト知ラ、輕ク前記契
 約ニ同意ヲ表スル事、其ノ勿論、後
 才二期耕田ヲ為スル才三期耕田ノ見
 確立セザル以上、既ニ支拂ヒタル五
 外更ニ一季少五千兩ノ巨款ヲモ併
 ニ雪散霧霧海ニシテ、其ノナシトセザ
 不官ニ於テ又新ノ如キ冒險的契約ノ
 成立ヲ賛助スルノ理也、其ノ事
 是利義利ニ以テ、其ノ事情ノ目撃
 善後策ヲ講ズルナラ、歸朝ノ途
 ニ上リ、村井選徴未タ歸來セザル由
 二期耕田ノ期、次第ニ接近ニ至テ、行
 徒、一日焦心ノ中、後期日モ空ニシテ

在清瀬日本貿易事務館

陸右期の経過後は利義存
 村井古三妻あね口人子トノ電報不存
 到達時ニ付信徳ニ於テモ口人未
 着後口存山ノ意向如何ニ依リテ或ハ
 挽回ノ途有立テハ我モ難斗ト猶
 第一ノ債債ヲ希望シテ向ニ有テ
 其ノ同人之歸来何事ノ好報ヲ
 携乃帶セホリシニナラス却テ説教場
 引揚ノ訓令ニ齎来リタル者公テ
 對上束縛述陸右期ヲ本願者村井
 選淑ノ変遷リ動ニ徳義ニ悖戻セシナラ
 ズ速ニ地主エウエリヨフ氏ニ對テハ契約ヲ破
 棄シ各地信徳ノ積立ヲ爲シタル浮財五
 千圓ノ全額ヲ全ク水泡ニ屬セシメテ
 立至リ信徳一口ニ失望、極力ヤ口存山ノ交
 渉ノ不考ヲ鳴ラシ激昂ニ其高ノ別出
 三年ノ馬ノ通リ口存山執リ是反者ヲ
 求メ且ツ手付金トシテニエウエリヨフ氏ニ立替
 支拂ヒタル信徳積立金五千圓ノ支弁ヲ
 ホメ又不償ニ對シ存山ノ謝意ニ在テ
 旋方ヲ修新シタルヲ以テ不償ニ別出
 四年ノ馬ノ通リ口存山ヲ以テ大者管長宛
 不償希望シテ申述ハタル後亦未ダ日
 至ルマテ殆ント四月ニ至リトモ口存山ノ信
 徳世話係兼不償ニ對シ何事一片ノ返
 行ヲ爲サズ本件ヲ手開ニ付シ去リ

在浦潮港日本貿易事務館

是ニ於テ各地信徒ニ在リ激昂ノ意ヲ昂メ
村井選激カシテ教場ヲ揚メ訓令ヲ受メ
シリト稱シテガウ依ルトシテ留置スルヲ
見テ急遽速ヨリ人ヲ引揚メテ追テ予稍
不穩ノ情態ヲ見ルニ至リ村井選激
已ニテ十數リ有リ其國ノ途ニ至ルハ
オニテ云々

昨名曰中山ノ日ニ至ルニ本件前後ノ
始末ヲ傳ヒタル事ハ前記契約ノ旨トシテ
立替メタル信徒横立金五千圓ノ支弁ヲ
モルサレハ此等並ニ同行信徒ニ至テ電報中
行僅ニシテ田依ルニトシテラス曰中山ニ對テ
越國不信ノ意愈々著リ激昂尋常

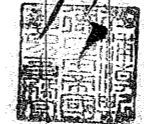
在浦潮港日本貿易事務館

ナラスル方一口中山ニ於テハ此等並ニ同行
ニ本件ヲ尋問ニ附シ去ルニ於テハ並
民ノ泣聲あり其意ハ此等並ニ有リ又行
徒ヲ厲メテ其意ハ此等並ニ有リ又行
徒ニ付テハ其意ハ此等並ニ有リ又行
仰ニ他ニ去ルニ至ルニ於テハ此等並ニ有リ
是レニ付テハ中山ニ至ルニ村井選激ヲシテ
信徒一日ニハ此等並ニ有リ又行徒ニ付テハ
引揚メテ其意ハ此等並ニ有リ又行徒ニ付テハ
留置スルニ至ルニ信徒トシテ其意ハ此等並ニ有リ
又行徒ニ付テハ其意ハ此等並ニ有リ又行徒ニ付テハ
リセサレトスルニ至ルニ信徒トシテ其意ハ此等並ニ有リ
ニ至ルニ至善ノ策ヲ執リ徒前ノ道ヲ改

教所ノ維持ニ勤ケル者至急ヨリ
ノ意思ヲ信テ一日ニ聲明ニ連カ
井ノノ結多ク告ル者ヤ務大臣ト
大協同ノニ般連口本山管長ト
後古女、探訪友山ノ面平清、
昭和三十五年四月十七日

左博朗

貿易事務官川上俊彦



外務省貿易課小村壽太郎殿

在浦潮港日本貿易事務所

3-2429

0065

馬牙一平

時々益々健康、段奉賀、陳有徒未
誤教所、為ノ石一方、未世話、願、其
段奉賀、謝、乃般其誤教所敷地買
収、計金五千圓、下附其條、責、買、契
約、其、為、諸、件、其、因、校、友、友、友
買、入、對、其、積、金、之、義、本、年、定、期
集、會、之、提、出、其、情、緒、ヲ、得、收、極
可、誇、條、在、業、公、友、友、友、買、收、
付、之、多、額、金、買、入、之、要、不、二、付、其
地方、之、於、之、精、寄、附、有、之、抄、本、
片、力、其、友、友、友、友、友、友、友、友、
以、力、其、友、友、友、友、友、友、友、友、

教書局印

在浦潮津日本購買物事務館

新法祝教所世話係
井上勝之助殿
橋本 央殿
堀江 直造殿
徳永 卯八殿
竹馬 巖殿
田中 亮吉殿
大渡 重次郎殿
世帯 森利市殿
奥村 勇太郎殿
加藤 徳次郎殿

近藤	小林	杉本	森田	平島	清島	島田	井上	菊池	本村	佐波	寺見	近藤	近藤	松尾	山下	野島	中村	永田	鶴崎	十住	田中	川本
平吉	平吉	礼吉	信吉	仙三郎	仙三郎	太三郎	以三郎	三郎	常三郎	武三郎	機一	木重	藤重	清助	清助	三郎	克己	栄重	重七	重太郎	正太郎	重太郎
友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成	友成

近藤平吉

事務館

馬才二平

時二益、由使是、川、本、後、賢、傳
者、從、來、去、山、說、教、所、義、二、廿、二、
不、一、才、由、配、慮、二、初、り、本、深、謝、
ノ、腹、右、説、教、所、嘉、地、責、實、之、
切、好、防、交、能、二、実、傳、之、符、件、
由、指、揮、且、二、由、了、力、二、初、り、交、以、
乃、由、依、初、二、終、也、

明治三十五年三月廿七

真宗末初寺派本山

執事 武田篤初

在清湖津日本貿易物書務館

清湖津徳道寺書務所
川上俊彦殿

西本願寺出張所、件

一四五九四

明治五年十一月六日 通商局 封

西本願寺寺務出張所、件、開
寺年七月三十日、寺年二四九年、西本願寺
ノ後、口寺責任者、寺地、信結總代、
提、案、二、封、二、赤、ノ、何、事、ノ、開、卷、ヲ、モ、其、以、ハ、
ル、二、付、信、結、總、代、ノ、地、主、ト、シ、テ、交、渉、ヲ、中、
止、シ、口、寺、山、ノ、開、卷、ヲ、待、タ、身、ヲ、振、ヲ、以、テ、
急、速、ニ、在、任、ノ、結、ノ、時、ノ、概、況、ヲ、
乃、屢、ニ、老、館、ニ、形、出、シ、開、卷、ノ、旨、ヲ、稟、
申、ニ、基、キ、至、急、ニ、口、寺、山、ノ、開、卷、ヲ、徴、
シ、レ、ル、概、況、ヲ、由、申、述、シ、終、了、

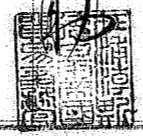
在清瀬港日本貿易事務館

明治五年十月廿九日

在清瀬

西本願寺信結總代

外務書記生 鈴木陽太郎



外務書記生 鈴木陽太郎

3-2429

0069

寺年二四九年、西本願寺
ノ後、口寺責任者、寺地、信結總代、
提、案、二、封、二、赤、ノ、何、事、ノ、開、卷、ヲ、モ、其、以、ハ、
ル、二、付、信、結、總、代、ノ、地、主、ト、シ、テ、交、渉、ヲ、中、
止、シ、口、寺、山、ノ、開、卷、ヲ、待、タ、身、ヲ、振、ヲ、以、テ、
急、速、ニ、在、任、ノ、結、ノ、時、ノ、概、況、ヲ、
乃、屢、ニ、老、館、ニ、形、出、シ、開、卷、ノ、旨、ヲ、稟、
申、ニ、基、キ、至、急、ニ、口、寺、山、ノ、開、卷、ヲ、徴、
シ、レ、ル、概、況、ヲ、由、申、述、シ、終、了、

馬牙三郎

肅管案臚村井選徴氏保着後及本山
法旨意心等し又々傳系仕付交村井
中ノ言ニ一字誤ラ得サハ辱キ難カク殊ニ
本山ノ法交買トモトモ少シク経直ノ置在
點ニ之リテ我儘左ニ事付開陳付テ
初メ浦潮新徳設取高野代官取ノ
件ノ以テ三月廿五日附教字爲ヨリ
川上貿易事務官ノ法書面及同内附
世説係一同ノ法書面ノ如ク本山ヨリ
掛込ノ方法明確定上殊ニ法書面ニ
掛込ノ法書面契約ニ係ル諸件ニ就キ
川上式初メ世説係一同ニ及リテ
在浦潮津川本買物事務館

申上り一決者ニ之アリ以、件ニ無事
本山ニ責任シルノ以テ行、在買ハキート
確信置在付、無事交、全額ノ上ヨリ
四ノ二期、掛込ノ事ハ僅カノ期間
ノ差違ニ法書面付交、實際那常ノ
不利益ニ之リテ契約は官行、再度、事
買上キテ待多クモ、官行ノ事ハ
無事、在買付交、持上ヨリ、全額、
法下付ノ旨ニヨリ、村井ギ、公ニ世説係、村
常、在買、法書面、上キ、法書面、在買、
在買、以、法書面、在買、
シ、在買、甚、多、在買、在買、在買、
五、在買、在買、在買、在買、在買、

3-2429

0071

本島代官收三葉し信東信丸
 松ノ高ノ何寺ノ後及之し無干と物之
 科之今令日ノ後自十ヲ生元ニ至リハ
 浦ノ邊ニ懸ノ寺ノ時知ヤ 陸柳力
 後東ノ解更ノ時陳し以解解
 申上反備せしノ時命令ノ補元徳ノ
 電報ニ好し 五取信一ノ副人
 之南陳天口ト以 如クニ口申ヤ
 結答者五姓

在浦潮港日本貿易事務館

一月廿四

平島守常

枝の仙常

川田信

本村常節

比呂屋守

打浦結光

執事

松原深言 殿 各通

武田常徳 殿

三百年
 土り古名着
 呈利師朝没、知事局ヨリの上子
 解多の礼補、年々一電文「封井
 今ヨリ立つ事証同、ヨリ期々」
 知事局ヨリ存山、山仔丸「封井
 電報」
 二岩つ子、浦内新居、有知場「揚
 津備」

上浦朝臣日下聖一カ行務官

3-2429

0078

馬年四月

拜啓閣下益御清穆奉欣賀候陳者貴
本山説教場地所及家屋長期借入件之関シ
客年二月中村井布教使及信徒銘代上名之親
シテ事情具申ノ末右借料ハ一切貴本山ニ於
テ負擔セラレ、事ニ決シ差當リ豫約金トシテ下付
セラレタル五千箇ヲ受領シ帰還シタルヲ以テ當港
在留信徒一日ハ其趣ヲ拜承シ既シモ貴方
山ノ恩遇ニ感佩シ深ク満足ノ意ヲ表シ又右
次第取最初五千箇ノ手付金ノミテハ契約ノ
成立覚東ナリ願ヒ困難ノ事情ナキニ非カリシモ老
該掛一同熱心ニ斡旋ノ勞ヲ執リ且ツ其際
契約ノ成立ニ関シ尽力可成様特ニ武田執行

在浦潮港日本貿易事務館

ヨリ小生ニ依頼有之者ニ付、至ニ於テモ多少助カラ
共ハ美話果トシテ地主ニ上ヨリヨリ氏モ大ニ讓歩
シ辭テ談判進捗シ最初ニ五千箇ノ豫約金ヲ
拂込ミ殘額參考方五千箇ノ内志安五千箇ハ客
年十一月中御方箇ハ本年三月中拂込ノ條件
ヲ以テ客年六月中償借主双方當館ニ出
頭シ小生ニ會シ上契約ヲ結了致ス次第ニ有
之ヲ然ルニ右借料第二期拂込ノ際若シ第三
期拂込金ヲモ一度ニ納入ス事ヲ得ハ直様地
所家屋トモ若皆占有ノ權利ヲ得其利便野
少ナラサレバ特別支出ノ義貴本山ニ向テ懇請
致スヘキ趣ヲ以テ客年十月村井布教使再ニ
上名ニ奉テ歸來不致ス得共貴本山ヨリ特派セラ

レタル足利注記未港ノ上第二期拂込金ハ未存
山ニ於テ支出セラル、モ第三期分ハ悉皆信徒ノ負擔
ニ歸セシムルモノナル旨突然信徒ニ向テ宣言致ス
右ニ在る信徒一日カ夢ニシテ豫想セサリシト云ナル
ヲ以テ其驚愕一方ナラス今後如何ナル處置ヲ執ル
ヘキカト點シト當惑致ス若シ信徒ハ最初ヨリ其
負擔ニ歸スヘキモノト知ラハ輕ニシテ前記契約
ニ同意ヲ表セシ事益之ハ勿論小生等ニ於テモ如キ
冒險的契約ノ成テテ贊助スル理由益之ヲ難シ第
二期拂込ヲ爲スモ第三期拂込ノ見込確立セザル以上
既ニ支拂ヒタル五千圓ノ外更ニ一万五千圓ノ巨款
ヲモ併セテ雪散債務消セシムルノ慮ナシトセズ在リテ
信徒一日ハ今更第二期拂込金ヲ支拂フノ義務

在浦潮港日本貿易事務館

ヲ負擔ス能ハス頗ル困難ノ境遇ニ陥リ又依テ
足利注記前述ノ事情ヲ目撃シ出未得ヘクハ
善後策ヲ執ル事ニ尽カスベシト直ニ帰朝ノ途ニ
上リ村井布教使ハ尚未タ帰来セザル内第二期
拂込期日ハ次第ニ接近シ足利注記着系後或ハ
吉音ニ接スルヤモ難斗ト右ニ信徒一同鶴首
相待ケテ甲斐モ益之詭期日ハ同モノナク到未セシモ
何等ノ電音ニ接スス一日魚心ノ中詭期日モ空過
致ス右期日經過後「村井出立妾細五人ヨリレテ」
電報ニ接シタル旨曰人未着後若本少ノ意向如
何ニ依リテハ或ハ挽回ノ途相立スルモ難斗杯ノ箇ニ
一カノ僥倖ヲ希望致ス向モ有之タレト人ハ歸来
ノ際何等ノ好報モ携帶セザリシノミナラス却テ誤殺

場引揚ノ訓令ヲ齎来リタル旨公言シタル以テ
 信徒一日ハ愈々失望ヲ極メ村井布教使ハ内信
 徒全体ノ信任ヲ失ヒ外契約ヲ破棄シテ西遊
 ノ信用ヲ損シタルニテ又ハ遊ニ五千百ノ金額ヲ全ク
 水泡ニ属セシメ美事ニ至望リ美ハ誠ニ遺憾ニ被
 存ス是畢竟村井布教使カ若草山ト信徒ト
 ノ間ニ多ク全ク事情ヲ掩サ故ニ相互ノ意志ヲ疏通
 セシメサリニ聯由タルモト信スルノ外無シ美前迹ノ
 次第ニ存在留信徒中最早村井布教使ニ對シ
 寸毫ノ信用ヲ措クモテ強ト無之日人ハ信徒場
 引揚ノ訓令ヲ受テタリト公言シテカラ今日モ依然
 トシテ滞留スルヲ見テ信徒場引揚ハ果シテ若草
 山ノ意ニ出テタルモノナヤ否ヲ疑ヒ激昂一勇ナラズ此

在浦潮津日本貿易事務館

信ニ放擲スルハ將來如何ナル結果ヲ生スヘキヤモ難
 斗是同此際信徒一日ニ對シ若草山ノ意思ヲ
 宣明セラレ果シテ村井布教使ノ言ヲ交ニ相違ナ
 クハ急遽當地信徒場ノ撤回ヲ決行セシメ若
 シ然ラセハ此際至急相當ノ處置ヲ執レ一日
 モ早ク信徒一日ノ疑團ヲ氷解セシムラニモ極望
 望教美右申進度早々教員

明治三十五年一月十三日

在浦潮津日本貿易事務館

川上俊彦

伯爵大石光尊閣下

親展

明治五年五月七日

大書課長

明治五年四月三十日

53

海書

海書

海書

明治五年四月二十八日起草
同日發遣

通商局長

主任

通商局長

大藏京都府金庫

何の如く

京都西本願寺浦漸出訪

関元件

外務省

其地西本願寺の風土路徑浦漸港の
僧侶の滋養の事は地方委員日本
人の傳道に従事して其結果は港
其他の於て多數の信徒の有るに
りて港信徒の多數の金貨の募集
に轉化して其の財源に於て其及
況其の供養の事も亦其の及
借受契約期限の延長に於て其

外務省

予終了に誤説及場地主所有
の附属以て四港信徒誤説及
場有誤、必要ヲ認前記地所
家何、長期借入及誤資金、下
階、本以申請、未始借料、一
切奉野寺、於テ員擔、事ト
未半、リ、強弱金トシテ、地信徒
五千圓支拂、上、亥年六月申
地、主、契約締結後、及後、呈
市、心、意、細、問、ハ、前、交、シ、可、資
金、返、却、ヲ、以、地、信、徒、員、擔、セ、シ、メ、ン、ト
為、或、誤、説、及、場、引、揚、ヲ、ナ、ス、ト、モ、可
言、者、ナ、リ、地、信、徒、員、ハ、本、疑、念
ヲ、抱、キ、同、村、以、前、同、里、ハ、亦、有、リ、可、カ
シ、激、昂、毛、本、及、分、是、業、同、信
徒、ヲ、滿、足、セ、ル、ニ、足、ル、事、前、後、業、ヲ、執



本件、結了ヲ告ルニ採同本山
 長、流瑞之被与行殺在
 同地帝必領易事、賜力及中、
 前中、有之、以、海、可、
 是、流瑞、可、
 中、
 是、
 被、

外務省

宣統三年十一月廿三日
 宣統三年十一月廿三日

明治廿五年六月五日接覽

密送第八五號

外務省

領事官在在

號/22/第受

客月七日付送芽四九二號ヨ以テ在露
 領浦塩港ニ既設ノ本派本願寺説教所
 ノ件ニ付縷々却照會ノ趣了承早速該寺
 執行長代理武田篤初召喚目録懇示
 諭候處當初手付金五千円ハ既ニ下付濟
 有之猶在浦港信徒要望現在地所坪數
 ハ實際其必要ヲ認メズ其半ノ現在建物
 所在地丈借入ルコトニ其純額金貳万円
 内口地信徒ニ於テ五千円支出スル於テ該寺
 月更ニ金壹万円丈ハ差出可申右ノ折合
 候様致度旨申立候其他ハ別紙答辨書
 通有之候間可然清取計相成度此候
 及回報候也
 明治二十五年六月四日
 京都府知事大森 鍾
 外務省總務長官珍田 拾巳 殿
 追テ添付ノ書類ハ一括及御返戻候
 間州取申添候也

京都府知事 大森 鍾

明治廿五年六月六日
同 午 二 月 二 日 發遣

主任

通商局長

送第七三號

可務大臣

在浦塩港給米貿易事務協理代理

京都西本町古浦塩港事務所宛付

外務省

急

本年四月十七日付第一〇二五号ヲ以テ
干豫ノ旨案申シテ趣ニ在リテ京都府
府知事ニ付被檢申シテ受テ取用セヨ
於テ該事務執事長代理武田篤初召喚
取見懇々示諭シ受當初子付至五千
兩ノ既ニ付付滿ニ至リ猶在浦塩港信
道要地現在地外増敷實際其反

要ヲ認メ其申、現在建物の所在
地又借入ルルナシ其総額壹萬方
圓、内同地信託ニ於テ五千圓支出ス
ル於テハ該等より更に壹萬圓支出
申シ可也。折今自領政及
上り申其地ニ於テ是等辦出ノ通
リニ於テ田波ニ一萬圓支
出シ、此等申、本年秋收

外務省

國庫券 壹萬圓

(財政収支簿ニ於テ五号附簿ニ於テ是等括弧内)

第三四九號

本願寺普光寺張所ニ關スル件

一〇六三

西本願寺普光寺張所ノ義ニ關シ本年六月
 六日付送付七三年ノ貴信ヲ以テ添送ニ係
 ル同寺執行長代理武田篤初ノ春永書
 ハ横言曲辭何事要領ヲ得ルモノニ有
 之得共同人ニ大森京都府政事ニ對シ
 現在ノ建物(現有寺院事志ニ)所在地
 文借入ル事トシ寺地信託ニ於テ五千
 圓支出スルニ於テハ口寺ヲ走万圓支出
 出レ可申ニ付右ニテ折合ハ極致者由
 出レ極出回示未成ニ付右限ハ口寺從東

在浦潮港日本貿易事務館

ノ交至ニ市都合トモ認メ少ク亦邦
 宗教ノ海外布教ノ氣ヲ必要ト認メ
 長クニ付激昂也信託ヲ鎮信ニ是
 マテ口寺ト信託間ニ有レタル不和ヲ一
 掃シ同寺出張所ノ繼續ニ尽力カス
 バヤ昔信託總代ヲ懇意請降ニ付
 信託ニ更ニ地ニセリヨフ氏ニ由談ソ
 重々漸ク即金五万五千圓ニシテ五箇
 年間地所並七拾八坪並現有寺院
 ノ占有ヲ許ス可シ知ん上ニ前契約破
 棄ノ為メ没収シタル五千圓ニ付右地代
 金ノ由ニ算入致ス夫レハ口寺ニ付
 口寺得ルニ付口寺ニ於テ各職儀出シ

浦潮本願寺既敷地買収ノ

儀奇 御願

本年六月二日付、以^レ当地本願寺敷地買収ノ件

外務大臣等貴官宛、御回答ニ、京都西

本願寺ヨリ同地知事、差出^ス各辯書ニ、

信法集會協議ノ末、左ノ通り決議、茲^ニ御呈

蒙^リ着^セ成^ル事務其節、御稟申^下成^下度、今

日ノ交、區々^ニ枝葉ノ議論ヲ闘^ハ好^ク申^上ル

各辯書ニ、其^レ辯^ハ駁^スル^レ段^ニ於^テ尚^ホ

未^ダ、御主意通り現在、地所坪數、半數即チ或

七倍ハ坪ノ買収^スル^レトシ、地^ノ主^セリヨ^リフヤ、對^シテ改^メテ

該合^ノ遂^ニ至^ル交^ハ以^テ程^ニ漸^ク、即金^ノ露^レ債^ハ貳萬五千

圓ナ^リ向^テ二^千圓^ノ前^記地^所ニ、現^存寺^院占^有

權^ヲ與^フヘ^ト口^約ヲ^得又^累キ^ニ納^入ス^ル手^附金^五千

圓^ハ前^記約^ノ破^棄ニ^拘テ^モ其^レ義^上之^ノ有^効

ヲ^モト^スル^レ事^ノ議^ヲ得^ル時^ニ未^ダ、種^々ノ^事情^ノ有

之^レ得^ル共^ニ以^テ所^信任^ノ希^薄ヲ^以テ、本年^末未^ダ、

決議^通リ、即金^露債^壹萬^五千^圓ヲ^支出^ス是^レ以^テ

買収^ノ儀^未決^行成^ル時^ニ御^稟申^下成^下度

以取在野形也

信使決議項目

一 查 昨年度支出集會於ノ議決ニ凡金額

全部(金額約七万五千兩)ヲ支出セシメテ事

一 不足金額千兩、浦潮信使於ノ盡力ニ事

浦潮信使事務ノ該事務

信使總代

明治三十五年七月三日

近藤 徳文

木村 常次郎



在浦潮港

高田酒造事務般事務代理

事務主任 鈴木 陽之助 殿

明治三十五年八月十四日

同 明治三十五年八月十三日 發遣

丹平

主任

丹平

丹平

丹平

丹平

外務省

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a report or official document.

一、此項事務、前年以來、極力削減、其結果、

本年、更に削減、其結果、

本年、更に削減、其結果、

本年、更に削減、其結果、

本年、更に削減、其結果、

本年、更に削減、其結果、

(一) 事務削減、其結果、

外務省

急書

別紙

急書

明治廿五年十月十四日起草
同日廿廿日發遣

皇方乃身

信 主任

明治廿五年十月十四日

急

在滿洲
鈴木貿易事務取扱代理 人

京都電報局浦塩出張所宛に
本年七月三日自東京二宛附一以テ重テ以
申越、越了系於京都府及信達也

外務省

京都本流本館方浦塩出張所宛に
本年七月三日自東京二宛附一以テ重テ以
申越、越了系於京都府及信達也
貴社取回書事、於テ漢方後備召喚の上馬
ト手紙取書、貴社同出書之期、因テ重テ以
本年七月九日召集定期集會、提申
決議、越了系、貴社同出書之期、因テ重テ以
申越、越了系、貴社同出書之期、因テ重テ以

第 2 / 1 / 9 號

浦潮斯德本鯨寺

會堂敷地ニ関スル

上申書

赤塚

手

野村

野村

野村

(附)

露國內務大臣許可書
沿海州軍務知事許可書
浦潮市會議事録
會堂敷地地圖

四十二年二月十八日記録編纂接受

3-2429

0098

上申書

本派本願寺浦潮斯徳布教場

主任 太田 覺 眠

右覺眠敬意ヲ以テ外務大臣閣下ニ上申シ感謝
致スベキコト有之左ニソノ事件ノ梗概ヲ陳述致
シ可申候

我が本願寺が露領シベリヤニ開教着手已来
二十有七年絶ヘズ二三ノ開教使ヲ派遣シテ布
教ニ從事シ来リ其間二三ノ會堂ヲ建築セシコ
トアリシモ露國政府が地所ノ所有ヲ許サザリシヲ
以テソノ根據ヲ固ムコト能ハズ地所借用ノ期限

満了ト共ニ可惜幾多心血ヲ濺ギテ建築セシ會
堂ヲモ地主ニ文付セザルベカラサルノ苦痛ヲ繰返
ハシ来リ覺眠戰後再度航後一方ハ帝國領
事官ヲ煩ヒシテ内務大臣ニ會堂ノ開設及ビ覺
眠ノ布教行為ノ認可ヲ請願シテ直ニソノ許可ヲ
得一方ハ自ラ浦潮市廳ニ向テ會堂敷地ノ下附ヲ
請願セシガ市長ハ覺眠ノ請願ヲ容レ市會ヲ召
集シテコレヲ審議セリソノ歸結ハ

- 一 本願寺ハ日本佛教中ノ大本山ニシテ我が浦潮ニ
三十年ノ布教歴史ヲ有スルニ
- 二 内務大臣ハ已ニソノ代表者覺眠氏ニ布教行
為及ビ會堂建築ヲ許可セリ

三 現任覺眠氏ハ日露開戦當時西伯利亞に
留マリシ僧侶ニシテ殘留セシ多數ノ日本人ヲ
慰撫シ監督シ一人ノ犯罪者ヲモ出サザリシ
即チ露領内ニ於ケル吾ガ行政ノ治安ノ一端
助ケタルモノトイフベシ

四 浦潮市内ニ東洋的美術建築物ヲ得テ我
ガ浦潮ノ義觀ヲ添フルコトヲ得ルハ幸ニアラズヤ
五 日露ノ親善セザルベカラザルハ今論ズル迄モ
現ニ吾ガ中學生ノ觀光團ガ如何ノ東京官
民ノ為ノニ款待セラルカヲ思フトキハ我ガ市
民ニ满腔ノ誠意ヲ以テ是等日本人民ノ神
聖ノ事業ノ對シテハ毫モ吝惜スルコトナラズ

別ノ恩典ヲ與フベシ云々

斯クテ我ガ本願寺ハ浦潮市内最ニ適當ノ場所ニ
永久無代價ヲ以テ八百六十五坪ノ土地ヲ充附セラレ
タリ

覺眠ハ専心在「レビリヤ」同胞ノ布教ニ從事ス其
政治外交ノコトヲ知ラズト雖ドモ近時露國官憲ガ
吾人ノ請願ニ對シテソノ應答ノ親切ナル偏ミシ際
下ガ外交ノ威徳ノ反響ニ依リニアラザラヤ

覺眠西伯利亞根本道場ノ基礎ヲ得タルニ當リシ
ベリ「レ」在留信徒ヲ代表シ右ノ次第ヲ上申シ
感謝シ尚ホ將來ノ御高護ヲ奉仰候

敬具

明治四十三年一月十五日

右

太田覺眠



外務大臣伯爵小村壽太郎閣下

明治四十二年七月三日

本浦潮

日本領事館

大田覺眠殿

浦潮港、佛教礼拝堂開設公認、件、干し裏
當地軍務知事、及照會置候處六月廿七日付
ラ次、知事代理、別紙譯文、通り認可方
回答有之候間此段及通知候也

第三八〇八五

一千九百九年六月十七日

知事代理 パウレンコ

部長 アンドレエフスキ

在浦潮

日本帝國領事殿

以書翰致啓復候陳、内務大臣、本年五月二十日
 付第三三二八號外國宗教々務局公文ヲ以テ日
 本人ノ為ノ浦潮港、佛教礼拝堂開設ノ件、許可
 相成候尤、本建築條例、規定ノ遵守レ且ツ
 該礼拝堂ガ當地行政官權ノ管轄ニ屬シ其取
 締ヲ受ルニキ儀、有之候ニ付、御承知相成度
 此段及御通知候也

第三七一五八號

在浦潮斯德沿海州廳

一九〇九年八月十一日

沿海州軍務知事

第二六三五四號

一九〇九年八月十二日

浦潮斯德警務署長

受

沿海州軍務知事ハ長キニ露國內務省外國宗教司カ浦
 潮斯德在留日本人ノ為メニ佛教寺院ヲ建築スルコトヲ許
 可シタルハ就テハ當介ホントンヤヤ街第三十八號ハウエー
 ルス氏所有宅ニ於テ佛教上儀式ヲ行フモノモ支ナキ
 旨ヲ浦港警務署長ヲシテ浦港在住日本佛教本願寺
 代理者太田覺眠氏通知セラルト同時ニ同所ニ於テハ日
 本人カ佛教上儀式ヲ行フ以外ニ他ノ宗教上ノ集會ヲ
 ナサレル様常ニコレヲ監視セラルモノトス

軍務知事陸軍中將 フローク

局長 セリワン

露曆一九〇九年八月十七日開會浦潮市會
議事録

一 日本佛教禮拝堂敷地下附案

日本佛教本山代表者大日覺眠氏、請願係
日本佛教禮拝堂建築敷地下附、關し本年八月
七日開會浦潮土地委員會に先請

(一) アレウツスカヤ街端警察病院、向側

(二) ウェルヘカマロフスカヤ街シキデルールスキー

所有地、向側

二ヶ所、内其何レカラ市會決議、地代以下一般規

則に基キ下附スルコトヲ決議セリ

該請願、市會に提出セシメ、如ク決議セシタリ

一 日本佛教禮拝堂建築敷地トシテ一般規則に基キ

無代ニラ下附スルコト

一 該敷地内日本人會、樹木植込ミシテ為スコトヲ得

一 アレウツスカヤ街端警察病院、向側ヲ該敷

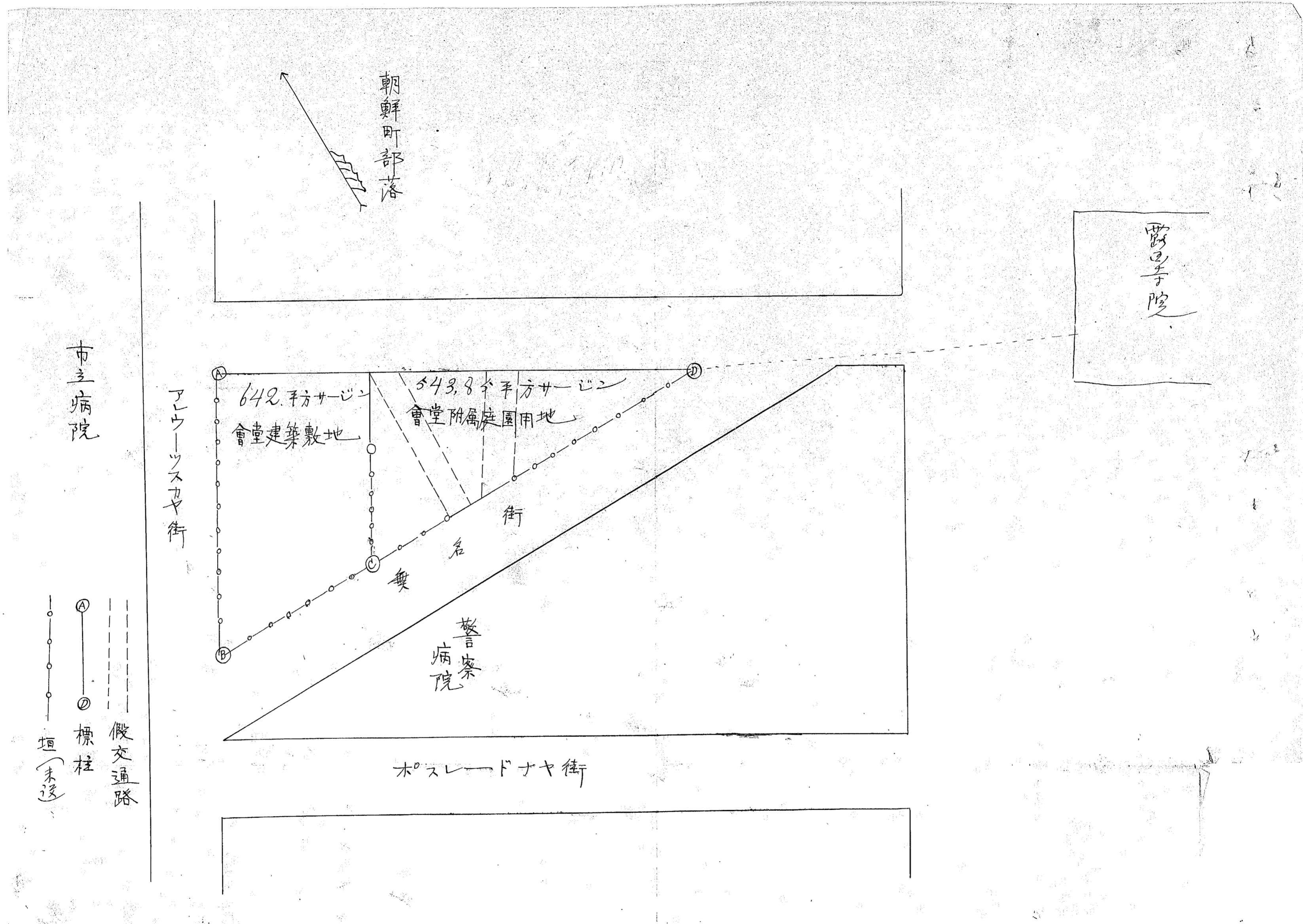
地ニ克ツルコト

一 教務代議員ムラウエイフ氏ハ該敷地ハ、ホフローフ

スカヤ寺院外柵ヲ距ルト百サージエシ以テ、地タル

ハキント申議セシム

議事録本書記名者



3-2429

0107



3-2429

0109

明治四拾四年拾月壹六日接獲

陳情書

附屬書類添附

受第24778號

浦塩、
照存

政務

ニコライ多分
也、
可所考外
也、

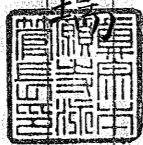
露領浦塩斯德に於てハ弊派出張所建築ハ別記ノ手續ヲ經由シ既ニ工事ニ著手致居候處本年九月十五日に至リ浦塩警察署ハ同出張所主任太田覺眠ヲ召喚シ突然工事中止ヲ命令セリ仍テ同主任直ニ軍務知事ヲ官邸ニ訪問シ右不法命令ニ對スル説明ヲ求めタルニ知事ハ「貴下ニ對シテ甚ク其毒ナシトモ政府ノ命令ナレバ如何トモ致シ難シ」ト云フニ止マリテ更ニ要領ヲ得ズ此レ或ハ露國僧侶ノ反對運動ニ起因セルモノカト察セラレ候モ市有地ヲ弊派布教場ニ無代ニ下付セラレタルハ固ヨリ露國僧侶ノ喜ハカル所ナルヘト雖該地域ハ露國寺院ヲ距ル百ガリニ上ルニシテ

本願寺

法規上我出張所建築ニ異議ヲ挾クヘキ理由ヲ認めズ既ニ軍務知事ニ於テ認可セシ建築ホ工事ヲ突然理由無クシテ中止セシタルカ如キハ不法ノ甚シキモノニシテ當レ弊派布教發展上ノ大損害タルノミナラス急テハ我國家ノ威信ニ関スル事ト存シ候右ハ太田覺眠ヨリ浦塩總領事館ヲ經由シ本野駐露大使ニ委細陳情致サセ置候ヘトモ何卒閣下ヨリ露國政府ヲシテ速ニ該工事中止命令ヲ取消サシメ候様御高配ニ預リ度此段情ヲ具シ及請願候也

明治四十四年十月十二日

真宗本願寺派管長 大谷光瑞



外務大臣子爵内田康哉殿

別記

明治十九年七月發派カ始マシ浦塩新徳ノ開校ニ着手セヨリ
歳多ク困難ニ遭遇シ拮据經營者、二十有五ノ歲月ヲ閱
シ露國官憲亦發派者張所設置ノ必要ヲ認シ其結
果露曆一九〇九年八月十七日開會セヨリ浦塩市會
ノ決議ニ依リ市ノ所有アリシ「アレウツスカヤ」街ニ於テ六
百四十二平方「サジエ」ノ地積ヲ無償ニシテ永代下付セラル
、事トナリ明治四十二年十月二十九日浦塩市廳ヨリ該敷
地々券ヲ交付セラル露國官民ニシテ所謂異教徒タル
弊派ニ對シテ表明セル厚意ハ蓋シ異例ノ特典ニ屬ス
弊派ニ此好意ニ喜ブ員セワラシコトヲ期シ東洋式殿堂ヲ
建設シ以テ浦塩市ノ一美觀トラシメシコトヲ企圖シ該

本願寺

建築設計書ヲ沿海州廳ニ提出セシニ同廳ハ特例ヲ
以テ建築條規ニ準據セテ設計ニ此ノ變更ヲ施サズシ
テ明治四十三年三月廿六日軍務知事ヨリ建築認可
與ヘラレタリ此ノ旨ニ直ニ同出張所主任太田覺眠ニ命ジ
該工事ニ着手セシム然ルニ露國官民ノ好意ハ之ニ止マ
ラズ再ニ露曆一九〇九年十月十八日ニ至リ該出張所々屬
ノ庭園用地トシテ日裏ニ下付セラルル地面ノ隣接地六百
二十二平方「サジエ」ニ更ニ市會ヨリ永代無料ニテ下付
セラルルニ至リ斯ノ如クシテ工事進行中圖々モ本年九
月十五日浦塩警察署長、太田覺眠ヲ召喚シテ工事中
止ヲ命令セリ

文書課

明治四拾四年拾月貳拾日 接受

松越 85

次
作

明治 年 月 日
同 日 年 月 日
手 紙
發 達 別 紙

主任

森

明治四拾四年拾月貳拾日 發達

主管

松越

高塚

送第一三七號

政務局

立 通 達

内田大臣

事務局長

本局事務局長内田大臣に
送る件

四年十月二十一日

外務省

第 19 号
第 1 号
第 4 号

取付書
取付書
取付書
取付書

取付書
取付書
取付書
取付書

取付書
取付書
取付書
取付書

取付書
取付書
取付書
取付書

取付書
取付書
取付書
取付書

取付書
取付書
取付書
取付書

3-2429

0112

明治四拾四年拾月參壹日 接受

第一課 附屬書類添附

第三七五

受第 26258 號

明治四十四年十月二十七日

在浦潮斯德

總領事男爵大島富士太郎

外務大臣子爵内田康哉殿

本願寺出張所建築見合ニ関スル件

本願寺當地出張所會堂建築中止ニ関シ詳細報告方本月二十日付送第一三七號ヲ以テ御申越ノ次第致敬承候當地本願寺出張所ハ露曆一九〇九年八月十七日當市市會決議ニ基キ當市ヨリ

在浦潮日本總領事館

會堂敷地トシテアレウツスカヤ街ノカレイスカヤ、スラボツカ、(通常朝鮮町ト稱ス)ニ終ル高地ニテ見晴シ佳キ場所ニ六百四拾二平方サヘゼン、地區ヲ無代下附セラレ露曆一九一〇年三月四日沿海内廳建築局ヨリ日本式會堂設計圖面、認可ヲ得、尙外ニ露曆一九一〇年十月十八日寺院庭園用トシテ會堂用地ノ東部ニ五百四拾參平方サヘゼン、地區ヲ無代下附ヲ受ケ、容月初邦語ヲ以テ(露國ノ法律ニヨル件ハ露語ノ譯文ヲ附スルヲ要ス)人目ヲ惹クハ(稿中未定)境界標ヲ立テ高サ十米、糸一部ニ圍柵(コレガタメ多少通行人行動ヲ妨ゲタリ)ヲ施シ候處、容月十四日付軍務知事ヨリ該地區付典ニ関シテハ個人並ニ關係官憲ヨリ請願、次第アリタルニ付、本件ノ解決ヲ見ル迄

大島總領事館
本願寺出張所
露曆一九一〇年十月十八日
寺院庭園用トシテ會堂用地ノ東部ニ五百四拾參平方サヘゼン、地區ヲ無代下附ヲ受ケ、容月初邦語ヲ以テ(露國ノ法律ニヨル件ハ露語ノ譯文ヲ附スルヲ要ス)人目ヲ惹クハ(稿中未定)境界標ヲ立テ高サ十米、糸一部ニ圍柵(コレガタメ多少通行人行動ヲ妨ゲタリ)ヲ施シ候處、容月十四日付軍務知事ヨリ該地區付典ニ関シテハ個人並ニ關係官憲ヨリ請願、次第アリタルニ付、本件ノ解決ヲ見ル迄

本願寺出張所
建築見合ニ関スル件

當分右地區内ニ建築スルコトナカラシメシコトヲ當館ニ
申越候其際知事ノ説明ニヨレバ露國信徒ヨリノ請願
モアリ又浦潮斯徳市會ハ種々不都合ノ決議ヲナシ
タルヲ以テ内務大臣ヨリ市會議員ノ改選ヲ命ゼラレ
タリ從ツテ當時市會ガ決議セシ事項ハ新市會ヲ
シテ再議セシムベク本願寺會堂地區下付ノ件モ亦改
選シタル市會ヲシテ改メテ議決セシムベク或ハ知事ヨリ
他ニ土地ヲ下付スルヤモ計ラズ免モ角市會再議ノ
結果ヲ待タラシメトシコトニ有之候

在浦潮日本總領事館

ニ生レ本邦ノ事情ニ通シ本邦人ニ同情ヲ有シ詩文ニ
長シ夙ニ自由思想ヲ抱キ市會議員ニ當選前
野ニ在リシ際ハ當地ノ新聞社内ニアリテ大ニ言論
ヲ擅シ露國ノ行政宗教等ヲ橫議シタルコトアリ
今日追獄ニ繫ガレシコトニ因ヒ及ビタルコトアル者ニシテ
露國宗教家乃至保守党等ニハ評判且敷カラザル
人物ニ有之候處太田覺眠ハ巧ニコレニ取入り與代
ニテハ困難故幾分ニテモ且敷ケレバ支出致矣シトノ相
談アリシモ之ヲ斥ケ漸ク今人ノ盡力ニ依リ市會ノ決議
ノ結果無代地區ヲ得タリ是全ク先方ノ好意ニ出テ
タルモノニ有之候ノミナラズ今因内務大臣ノ命ニ依リ軍
務知事ガ市會ノナシタル該決議ヲ再議ニ附スルコト、
ナシタル其内情ヲ窺フニ正教僧侶乃至保守党ノ自由

竟ニ對スル竟爭ノ餘波ニ過ギサルコト明カニ相成候間輕
 卒ニ政爭渦中ニ投シ之ニ容喙スルハ露國內政ニ干典
 スルノ嫌有之却テ先方ノ感情ヲ害シ不利益ナルベキヲ
 慮リ且ツハ知事ニテハ取計兼候義ト存可然時機
 見計ヒ總督兼浦ノ折直接懇談スル所アリト思考
 致居候次第ニ有之候尚會堂建築敷地(別添付
 圖御参照)ハ露國寺院ヨリ百サレゼン以上隔タリ居
 候ハ此會堂附屬庭園用地區ノ一部ハ百サレゼン以內
 ニ有之候間從テ露國寺院ヨリ異議ノ申立アリタル
 次第ニ有之候又當地出張所ハ右會堂地區内ニ
 未ダ建築工事に着手セザルノミナラズ建築材料ノ
 準備スラ之ヲサズ地區内ニ存在セル本邦貸席業者
 ハ今尚營業中ニシテ更ニ立退クノ模様ナク唯豫定会堂
 敷地ニ境界標四個許建立セリト少許ノ圍柵ヲ設ケシ、
 ミニ有之又當地方氣候ノ關係上差當リ今日工ヲ起
 スコト能ハザル義ニ付軍務知事ハ太田覺眠ニ對シ
 建築ノ中止ヲ命ジタルニ無之本月末頃(未週新市會
 ノ第一議會開催ノ筈ニ有之候)市會再議ノ結果無
 代下附ノ當否決定スル迄建築工事を起サザル様豫メ
 請求シ来リタルモノニ有之候尚太田覺眠ハマトウエフニ
 對シ出張所會堂ハ數萬金ヲ投ジテ京都本院ニ類
 スルガ如キ宏麗ナルモノヲ建築スルモノナレバ市ノ美觀ヲ
 加フルコト一入ナルベキヲ揚言シ爲テニ相當地代ヲ拂フベキ
 ヲ無代ニテ下附ヲ度々置キタルモ實ハ本山ニ於テモ御
 香刺リ杯ト稱シ連枝当地通過ノ際杯居留民ヨリ數
 百金ヲ奉納セシメシ事アルモ未ダ嘗テ多額ノ金品ヲ當

在浦潮日本總領事館

地信仰者ノ高ニ投セタ今四モ僅カ一二萬ノ支出スラモ
肯セガルヲ以テ到底建築費ノ都合上小規模ノ寺院タルヲ
免レズ同人ノ直話ニ依ルモ是ハ稍々市會議員ヲ購著
シタルガ如キ觀アルモ免モ角地區ヲ得置キタル上ハ其後
ハ如何トモナルベシ杯ト申立居候且ツ右無代下附ノ点ハ
軍務知事モ大ニ之ヲ訝リ居候由申居候如此今人ノ
日常ノ言動ハ山師的ニシテ或ハ新聞ニ自己ノ事業ヲ
誇大ニ投書シ或ハ顯官ノ許ニ出入シテ其虎威ヲ借ラシ
トレ僧侶トシテ不似合ナルコト往々有之コレガタメ一部ノ
同情ヲ失シ居ルコト一方ナラザル様見受ケラレ候ハ甚ダ
遺憾ノ次第ニ有之候

在浦潮日本總領事館

院ヲ距ル百サレゼン以内ニアリタルト、ニヨリテ生ジタル問題
ニ有之候

當市市會ノ改選ハ本月二十五日付公第三六八號
拙信ヲ以テ報告申進置候通り既ニ結了シテ本月二十四
日軍務知事ノ認可ヲ得來週新市會ノ第一議會
ヲ開ク筈ニテ其際本件地區ノ件モ亦其再議ニ附スル
趣ニ付追テ何分ノ義明亮可致候ハ此尚本官ハ近
日當地ニ來ルベキ總督ニ對シ本件ニ付委曲懇談
ヲ遂ゲル筈ニ有之候間右様御了承相成度此段
報告申進候敬具

明治四年十月廿九日

公第三六六号

明治四年十月三十一日

在浦泊斯德

總領事 男爵 大島 富士太郎

外務大臣 子爵 内田 康哉 殿

本秋寺出張所敷地並に鮮人三箇シ

總督 コンダツケトノ 会見ニ當スル件

本官ハ十月三十一日目下当地ニ滞在申上ル沿里竜總督コンダツケトノ
停車場梅内ニ田ヲ置ケル其特用列車ニ往訪シ臂頭寺持技
師ハ岩下ノ好意ニ依リニ事ニ旅行ヲ了(過日屏給ノ意ニ

外務省

就キタル旨ヲ述ニ候處總督ハ今迄共ニ技師ノ如キ目的ヲ
以テ当地方ニ出張セラルル方ニ相立テ援助ヲ与フ(キ由リ答ニ
次ニ本秋寺当地出張所合堂地区ニ當リ本官ハ洋酒ノ事
情ヲ縷述シ同地ヨリ市令決議ノ通り元ノ儘ニ本秋寺ニ貸
与相成候様配慮ヲ煩ヒテ旨申上ル(本官總督ハ本件ニ當
リテハ太田覺眼ヨリ請願書ヲ漸ク今約接子シタルニ
シテ未タ洋酒ノ事情ヲ知悉セザルヨリ当地滞泊四五日
中ニ觀シテ当地踏査スルト共ニ關係者類ヲモ覽視シ滞
泊中ニ本秋寺ノ存メ出考ハハ限リ有利先解決ヲ与フ(キ
ニ付年其合アリタル旨ヲ答ク候

次ニ本官ハ總督ニ對シテ官リ處ニシテハ岩下ノ措置ニ對シ

ホシエトヨリ朝鮮國境ニ至ル地方ニ住セハ朝鮮人申一宜

地区以外ニ居住農業者ニ從事セハ者ハ之ヲ送還スルト相

受27124号



成文(本月廿六日付公署三七八号報告)越、處從來年久シク
平和ニ農業者ニ從事スル者ハ依然該地方ニ居住セシムル
トシ一宜、業務務リ有セシムル浮浪セハ不良ナル女子ヲ
此際送還セラルト致交言リ(ホ)一、其處總督ハ貴官
申出ニ宜シク本官モ亦之ヲ諒ス一宜、業務務ニ従テ
者ハ管内、他、地方ニ移轉セシムルトシ、特、置、ノ、人、物、ニ、限、リ
送還スルコトスルハ當、而、テ、高、思、ナ、リ、ト、尚、總、督、ハ、曰、ク
元來朝鮮人ハ平和ノ民ニシテ善良ナル農夫ナリ且、其、死
等、格、メ、テ、カ、シ、コ、シ、及、シ、テ、清、國、人、ハ、其、死、者、頗、ル、多、シ
本官ハ管内清國労働者ヲ既、ニ、之、ニ、代、ル、ニ、朝鮮人ヲ
以、テ、ヤ、シ、ト、セ、ル、ガ、既、ニ、近、ク、朝鮮人ニ對シ、全、坑、地、方、ニ、於、テ、土
地、ヲ、附、与、セ、レ、ト、ス、ト、

外務省

伯、ル、邦、ノ、情、況、ハ、何、レ、ノ、如、ク、ナ、リ、ト、申、出、ス、付、キ、油、火、油、火、サ、ス、直、接
口、頭、若、ク、ハ、書、面、ヲ、以、テ、申、出、ス、ラ、シ、テ、予、ヲ、希、望、ス、ル、ガ、如、ク、ホ
一、候

右報告申(自)ニ交教吳



拓殖行五七号

本日廿一日付回送才九八号ヨリハシヨ回付ニ相成候在款
寺出張所敷地等ニ付キ總督ヨリニダツテトノ会見
置スル別紙書類及返戻ニ矣也

明治四十四年十一月廿七日

拓殖局第二部長 江木翼

外務省通商局長 坂田重次郎 殿

外務省

受08423號

明治四十五年四月 八日

第一課

公第一〇〇〇
明治四十五年四月二日

在浦潮斯德

總領事男爵大島富士太郎

外務大臣子爵内田康哉殿

本願寺用地ニ関スル件

當地本願寺出張所寺院建築用地ノ件ニ関
シテ八十四年十月二十七日付公第三七五號及
同年十月三十一日付公第三八六號ヲ以テ申
進置候處令般沿黑龍綫督ノ来浦ヲ機

在浦潮日本總領事館

トレ本件其後ノ成行ヲ質ス候處曩ニ本願
寺出張所用地ハ一九〇九年八月十七日ノ當
市市會ノ決議ニ基キタルモノナレトモ當時ノ
市長ハ本件ニ関シ浦潮斯德要塞司令官
ノ許可ヲ得ザリシガ爲メ其後ニ至リ要塞司
令官ヨリ要塞地帯法ニ依リ所定地ニ寺院
建築ヲ許可シ難キ者ノ抗議アリタルヲ以テ
遺憾ナカク如何トモ致難キニ付今後寺院
建築用地トシテハ不便ナラザル可然キ場所ヲ
撰定シ相當ノ便宜ヲ與フベキ者ト答有之候
本件ハ曩ニ報告申進候事情有之假令ハ市
廳側ニ過失アリタリトスルモノ無價ニ好意
上貸下ヲ得タル土地ナルニ其後茲再建築ニ

本願寺
本願寺

着手セザル等本願寺創ニ於テモ弱味有之
候事故今更之ヲ責ムルモ只先方ノ感情ヲ害
スルニ過ギザルヲ以テ適當ナル替地ヲ請求致
方得策ト思考致候
右不取敢報告申進候敬具

在浦潮日本總領事館

西ノ支那ノ土地ノ可ク買ハレシメヨトシテ其ノ地ヲ買ハ
ルニ条件アリシ
其ノ条件ハ
付来ノ地ノ所有權ヲ放棄スル事ヲ要ス
カニキコト
カニキコト

夫レノ後一ノ年間ノ地所ノ交付
終ラサシメヨトシテ其ノ地所ノ所有權
ノ交付ノ事ヲ要スル事ヲ要ス
カニキコト

外務省

大臣前へ

東支ノ土地ノ買入ノ事
貴族院議員ノ意見ニ依リテ
其ノ土地ノ買入ノ事
其ノ土地ノ買入ノ事

明治四拾五年五月十七日接覽

第一課

附屬書

公第一三六號

明治四十五年五月十日

在浦潮所德

總領事代理

三浦

受12029號

第2項 第1門 第1號

外務大臣子爵財田康哉殿

本領事用地圖存

当地本領事出張所用地區圖總督文書
五月十日付送第五十号子爵所訂
領事致教館候札別紙函了不取
在浦潮日本總領事館

在ハルビン市沼屋龜總督村に照合
設置候同右様御事知事申候此致
應報告申進候敬具

譯文

第九八號

明治四十五年五月九日

在浦潮斯德

日本總領事代理ニ報告ス

沼里童總督ニテアリテ...

准以書東致信上候

東者本款寺用地因...

在浦潮日本總領事館

貴官、於之御前知シテ...

功、要請改スモノ有之由
 一、新地区、現在ノ地区、カ、佛教信徒殊、女
 子十供等、ク、年、詣、便、立、場所、在、ル、事、ト、
 二、新地区、其、相、續、現、在、ノ、モノ、多、ク、ナ、ル、事、ト、
 三、新地区、現、在、ノ、地、區、什、典、ノ、際、附、タ、ル、ト、モ、一、
 條件、ヲ、付、ス、ル、事、ト、モ、新、タ、ク、何、等、條、件、ヲ、
 付、セ、サ、ル、事、ト、
 四、新地区、什、典、ノ、現、在、ノ、地、區、ヲ、市、ノ、内、付、ス、ル、事、ト、
 本、官、ノ、前、ノ、表、官、カ、有、本、官、ノ、相、續、供、ノ、際、當、テ、
 ル、ヲ、認、メ、シ、之、ヲ、容、ル、ル、者、十、條、ノ、確、信、ト、速、カ、ル、事、
 同、考、ト、接、ス、ル、事、ト、期、待、ス、ル、事、ト、有、之、候、敬、具、
 在浦潮日本總領事館

Копія.

Къс докладу Владивостокской Городской Думѣ.-

17-го Августа 1909 года

№

Объ отводѣ участка земли подѣ японскую буддѣйскую молельню.-

Представитель японскаго буддѣйскаго синада г. Оота Какуминъ ходатайствуетъ объ отводѣ участка земли въ аренду подѣ сооруженію буддѣйской молельни.-

Городская Земельная Комиссія въ актѣ отъ 7-го Августа с.г. составила заключеніе о возможности отвода въ аренду на общихъ условіяхъ, за плату по рѣшенію Думы, одного изъ двухъ участковъ, а именно: 1/ въ концѣ Алеутской улицы противъ полицейской больницы, 2/ по Верхне-Комаровской улицѣ противъ участка Скидельскаго.

Ходатайство это представляется Городской Думѣ.

Постановлено

7/ Отвести участивъ подѣ японскую молельню на общихъ арендныхъ условіяхъ, но бесплатно, съ тѣмъ, чтобы на участкѣ японскимъ обществомъ была устроена посадка деревьевъ.

Мѣсто для молельни отвести въ концѣ Алеутской улицы, противъ Полицейской больницы. Депутатъ отъ духовнаго Вѣдомства протоіерей Муравьевъ заявилъ, чтобы мѣсто было отведено не ближе 100 сажень отъ ограды Покровской церкви.

Подлинное за надлежащими подписями.

Съ подлиннымъ вѣрно:

Членъ Управы А. Красовскій./подпись/.

Секретарь Вильевъ./подпись/

Копія.

БИЛЕТЪ №242.

1910 года Марта 4-го дня. Выданъ представителю Японскаго

Буддѣйскаго Синада, священнику ООТА КАКУМИНЪ въ томъ, что представленный имъ проектъ на постройку въ гор. Владивостокѣ зданія японской буддѣйской кумирни разрѣшенъ въ Строительномъ Отдѣленіи при Приморскомъ Областномъ Правленіи и утвержденъ г. Военнымъ Губернаторомъ Приморской Области, а потому означенная постройка разрѣшается.-----

Областной Инженеръ подпись.

Дѣлопроизводитель подпись.

Документъ сей гербовымъ сборомъ оплаченъ.

Дѣлопроизводитель. подпись.

Копія.

М. В. Д. ИМПЕРАТОРСКОМУ Японскому Консульству
Военный Губернаторъ во Владивостокѣ.
Приморской Области.

по
Областному Управленію
отдѣленіе 2
Столъ 2

17 Іюня 1909 г. Сообщаю для свѣдѣнія, что Министрамъ Внут-
№28085. реннихъ Дѣлъ; / по Департаменту Духовныхъ Дѣлъ

Иностранныхъ Исповѣданій отношеніе отъ 21 Мая
на № 35. сего года за №3228 / разрѣшено устройство въ го-
родѣ Владивостокѣ буддійской молельни для японцевъ
при соблюденіи постановленій Устава Строительнаго
и съ тѣмъ, чтобы молельня эта состояла въ вѣвѣдѣніи
и подѣ наблюденіемъ мѣстной гражданской власти.-

за Губернатора /подпись/

Управляющій Отдѣленіемъ Синеоковъ-Андлезовскій /подпись/

3-2429

0131

...на Вашу всегдашнюю любезность, покорнейше прошу Ваше Высокопревосходительство не отказать поставить меня в известность о последствии настоящего дела в возможно непродолжительном времени.-

на Вашу всегдашнюю любезность, покорнейше прошу Ваше Высокопревосходительство не отказать поставить меня в известность о последствии настоящего дела в возможно непродолжительном времени.-

и. д. Генерального Консула: *X. Миллер (подпись)*

административное обстоятельство, а другой ²² правильность жалобы Священника Оота, и вмѣстѣ съ симъ признавая необходимымъ принять отвѣчающія взаимному желанію мѣры для скорѣйшаго разрѣшенія данного вопроса, ИМПЕРАТОРСКОЕ Генеральное Консульство имѣетъ честь обратиться къ Вашему Высокопревосходительству съ просьбою, не найдете ли Вы возможнымъ сдѣлать надлежащее распоряженіе Владивостокской Городской Управы, чтобы послѣдняя отвела какой нибудь новый участокъ подъ японскую молельню вмѣстѣ отведеннаго въ концѣ Алеутской улицы съ тѣмъ, чтобы, 1/ новый участокъ находился въ удобномъ мѣстѣ, особенно женщинамъ и дѣтямъ, мѣстѣ для отправленія своихъ религіозныхъ обрядовъ, въ какомъ нынѣшній находится, 2/ новый участокъ былъ площадью не меньше нынѣшняго, 3/ новый участокъ былъ отведенъ на условіяхъ, на какихъ отведенъ нынѣшній участокъ и не прибавлено было никакого новаго ограниченія, 4/ по отводѣ новаго участка нынѣшній Городу *будетъ* возвращенъ.

Будучь твердо убежденъ въ томъ, что Ваше Высокопревосходительство не оставитъ мою просьбу безъ уваженія и надѣясь

на

3/ проект на постройку здания молельни был разрешен в Строительном Отделении при Приморском Областном Правлении и утвержден Военным Губернатором Приморской Области от 4-го Марта 1910 года, 4/ план участка в количестве 642 кв. саж. снимал и чертил техник А. Лукьянов в Октябре месяца 1909 года.

При вышеизложенных обстоятельствах дела, Священник Оота приступил к постройке здания в указанном участке не предполагая встретиться с распоряжением со стороны Военного Губернатора от 1-го Сентября 1911 года, согласно которому постройка была приостановлена на том основании, что поступило к Военному Губернатору несколько заявлений, как частных лиц, так и административных учреждений, оспаривающих право на этот участок, и так как постройка была приостановлена таким образом в самое занятое подготовлением время, то само собою разумеется, что названный Священник потерпел довольно значительный убыток и в настоящее время он действительно находится в безвыходном положении.

Принимая во внимание с одной стороны дружественное отношение, существующее между Россией и Японией и Ваше внут-

ренное

Komiss.

М. И. Д.

ИМПЕРАТОРСКОЕ
ЯПОНСКОЕ ГЕНЕРАЛЬНОЕ
КОНСУЛЬСТВО

Его Высокопревосходительству
Г-ну Приамурскому Генераль-Губернатору.

26-го Апрелья 2

№ 98.

г. Владивостокъ

Дѣло объ участкѣ
подъ
японскую моельню.

Генеральный Консуль Баронъ Отори еще во время его пребыванія имѣлъ честь лично просить Ваше Высокопревосходительство по дѣлу объ участкѣ подъ японскую моельню "Хомгаджи" и положеніе котораго вѣроятно уже Вамъ извѣстно: оно заключается какъ видно изъ приложенныхъ при семъ копій документовъ, въ томъ, что, 1/ устройство въ городѣ Владивостокѣ буддійской моельни для японцевъ было разрѣшено Министромъ Внутреннихъ Дѣлъ отъ 21-го Мая 1909 года, 2/ участокъ земли подъ моельню былъ отведенъ Владивостокской Городской Управой согласно постановленію Городской Думы отъ 17-го Августа 1909 года въ концѣ Алеутской улицы, противъ Полицейской больницы, на общихъ арендныхъ условіяхъ, но бесплатно, съ тѣмъ, чтобы на участкѣ была устроена посадка деревьевъ,

Его Высокопревоско-
дительству
Николаю Ливовичу
Г-ну Гондатти,
Приамурскому Генераль-
Губернатору.

3/

3-2429

0135

南朝斯德本願寺坐落所
別地箇圖を伴

3-2429

0136

09907

大正元年三月七日 接受

第... 冊

公第... 號

大正元年十月二十九日

在浦潮斯德

總領事代理

三

外務大臣子爵内田康哉 殿

本願寺布教場用敷地ニ関スル件

在當地本願寺出張所用敷地ニ関シテ沿里龍
總督ニ照會ノ次第ハ本年五月十日附公第
一三六號ヲ以テ報告申進置候處其後終
督ヨリ何筆ノ回答ニ接セス然ルニ過般當地

在浦潮日本總領事館

市會議員タル支倉庫長スイズラシスキ一氏ニ
面談ノ際全氏ノ言ニヨレハ浦潮斯德市ガ市
會決議ニ基キアレウワスカヤ街ノ終端警察
病院ノ傍ニ附與シタル本願寺用敷地ニ関シ
表面上要塞司令官ノ異議ニ據リテ不成立
ヲ見タル由ナルガ實ハ右敷地ニ提供シタル地区
附近一体ニ不遠大規模ナル公園ヲ開設セ
ントスルノ計畫アリテコレガタメニ本願寺敷地問
題ノ破壊ヲ見タル次第ナリ元來佛教寺
ハ正教寺院ヨリ一定ノ距離ヲ隔テ存在セザ
ルベカラザル法規ノ規定アリ而シテ現在ノ正教
寺院並ニ目下計畫中ナル寺院等ヨリ一定ノ
距離ヲ隔テタル場所ニ本願寺用地区ヲ指

定セントセバ到底日本人ノ集中セル個所ニ接近セ
 ル場所ニ之ヲ定ムルコト能ハズ思フニ此際ゴルビ
 ナヤ・パーチニ於テ地區ヲ附與セラレシコトヲ本
 願寺側ヨリ市役所ニ出願スル時ハ問題ノ成
 立ヲ見ルナルベシト思考セラル、旨語居候
 右ゴルビナヤ・パーチハ在留本邦人ノ集中セル個所ヨ
 リ稍々遠ザカリ交通上便利ナリトハ思考セラレス
 候處スイズラシキ一氏ハ附言シテ曰ク當市益々
 發達ノ傾向アリ追々ゴルビナヤ・パーチモ敏系盛
 ノ街路トナルニ至ルベシト、右スイズラシキ一氏ハ當
 市市會議員ニシテ地區委員會ニ關係ヲ有
 セル者ノ由ニ有之候間全氏ノ言ハ多少注意
 ヲ拂フノ價値可有之ト被思考候ニ付右ノ
 次第本願寺側ニ御通達方可然取計相
 成候様致度此段報告申進候敬具
 追テ在當地本願寺出張所太田覺
 眼ニ對シテハ右ノ趣本官ヨリ相達置
 候ニ付右様方ニ兼相成度此段申
 添候

在滿洲日本總領事館

文書課長 大正元年三月拾貳日接受 46
田代寺

同 三月十一日 月十三日 日 附

半信

大正元年三月拾貳日 達濟

坊田局長

真宗切替支取書
伊香大友克瑞記

幸海湖遺本新古布等場田屋

也 十二月二日 記録

在協極本信書布等場田屋

外務省

事件之裏に本被在由漸斯 佐希不流

領子領子 伊香大友克瑞記

桑右衛門 月内美少也

追テカ 冒頭記載、公券一三六号に如件

買し口強 活字了 和漢和名 且就 江流 和名 交情

取替之布 和名 大田 東野 和名 和名 和名

新 和名 和名 和名 和名 和名

和名 和名 和名 和名 和名 和名

附

大正四年五月廿四日接受

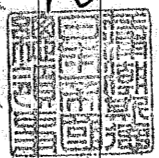
商第一課

公第七六號

大正四年五月十五日

在浦潮斯德

總領事代理野村基信



外務大臣男爵加藤高明殿

第17門第
第2項

受110158

本願寺

本願寺布教所用地問題解決ニ
関スル件

明治三十二年中浦潮斯德市々會、決議ニ基キ
本願寺布教所建築用地トシテ無料貸下ヲ
許可セラルタルアレウトスカヤ街北端地區ニ於
テ本願寺布教所カ正ニ建築ニ着手セントスル際
大正四年五月廿七日記録第二部接受

在浦潮日本總領事館

全四十四年十月突然州知事ヨリ建築着手
ヲ見合ハスニ命令ニ接シテ以來屢次交
渉ノ結果露國教務所側並ニ要塞側ニ
故障アルコト發見セラル相當ノ換地ヲ求ムル
ヲ以テ満足セサルヘカヲ至リ右ニ関シ全
四十五年四月十三日附送第五一號中訓人々ノ
趣旨ニ依リ總督ニ交渉ノ次第ハ今年五月
十日付公第一三六號ヲ以テ前任者ヨリ及報
告置候處其後換地ニ関シテハ市役所側ヨ
リ「コルビンナヤ」パーダ外ニ三ヶ所ヲ指定シ來
リタルモ何レモ不便ノ地區ニ至リ到底從前ノ地
區ト比較スルニ足ラス在苜時日ヲ經過シ來リ
タル處今次時局ニ際シ日露兩國ノ親交ヲ

利用本願寺側ニ於テ從前ノ地區貸下ヲ復活
 セシメントシ本官ニ圖ル所アリ本官モ豫テ其
 希望ヲ有シ居リタルヲ以テ總督、要塞司令、
 官、正教大僧正ト累次照覆ノ結果要塞側
 ニ於テハ別段異議ナキト確メラレ尚教務所
 ヨリ別紙甲號譯文ノ通り一定ノ條件ヲ付
 スルニ於テハ異議ナキ旨田答致越候依テ
 布教所主任者大田覺眠ハ右教務所ノ田答
 写ヲ齎ラシ州知事ヲ往訪シ許可ノ願出ヲ
 ナシ置キタル所露曆本年四月十三日付ヲ以テ
 別紙乙號譯文ノ通り市長宛州知事發公文
 写ヲ市役所ヨリ直接右大田主任へ送付越候
 右市長宛州知事發公文ニ依リ州知事ニ於
 テハ從前ノ敷地タルアレウトスカヤ街終端警察
 病院向側地區ニ布教所ヲ建築スルコトニ異
 議ナキモ建築ノ方法及設計等ニ関シ一定ノ
 條件ヲ附シ居リ候
 右條件ノ履行ハ多少窮屈ノ感ナキニアザルモ
 本問題ハ數年來ノ懸案ニテ今今次ノ解決
 ニハ總督始メ關係當局者ノ好意與テ力
 アリ尚本願寺側ニ於テハ之ヲ以テ満足ス
 へキ旨申出候ニ付乍遺憾右條件ハ其儘
 ト致置候ニ付右様申函相成度別紙甲
 號教務所來信並ニ乙號市役所來信譯
 文字相添へ以段報告申進候敬具

在浦潮日本總領事館

追子本願寺ニ於テハ今日前法主大谷光瑞氏
 ノ来浦ヲ機トシ右敷地ニ起工式ヲ與ケ
 續テ建築ニ着手可致手筈ノ處右建
 築ハ露國寺院ト權衡モアリ不体裁ナ
 ラサルヲ要スルヲ以テ相当ノ經費ヲ要ス
 ヘク当地在留民ニ於テモ出来得ル限リ
 盡力モル方針ナルモ實際本派寺願寺
 ヨリ少クモ尙万田ノ金額ヲ支出セシ
 ムル様致度其台金寺へ勸告方可然
 所取計相成度以段申添候

在浦潮日本總領事館

甲號

譯文

第九九號

浦潮斯德大主教宛尊翰ニ對シ浦潮斯德教
務所ハ九ニ申答ヲナスノ先榮ヲ有シ候
大主教側ニ於テハ千九百〇九年浦潮斯德市會
ノ撰定セルアラウトスカヤ街ニ沿ヘル地區ニ日
本布教所ヲ建設スルコトニ對シ異議ヲ有セ
ラレス候但シ同布教所ノ設立セラルヘキ場所ハ
傾斜面ト盲塚ヲ以テ同布教所カ始ントホク
ワスカヤ寺院ヨリ見ヘサル様ニ且ツ同寺院
ニ對スル側ニ成ルヘク速ニ樹木ヲ植ヒ足
ル丈ケノ地面ヲ建物ヨリ隔テ割與相成候
様敷校候

在浦潮日本總領事館

在浦潮日本總領事館

前陳ノ次第ニ付浦潮斯德教務所ハ布教所
建設ニ際シ大主教ノ指示セル條件ヲ充分
遵守シ且ツ其位置モ教務所書記官ホ
リヤノウスキー氏署名ノ上赤インキニ原圖上
ニ示セル通り實行セラルンコトヲ希シ生致シ
候敬具

露曆千九百十五年三月十六日

教務所委員

フロトイレイ

アラウウヨフ

自署

書記官

ホリヤノウスキー 自署

課長代理

ホポフ

自署

日本總領事館中

乙號

譯文
第一六三九號

本年四月七日付第三三三號貴翰ヲ以テ浦潮
 教務所書翰ヲ九一九號ニ基キ在浦潮日本
 佛教布教所敷地ノ件ニ關シ申越ノ趣ヲ
 承知右布教所ヲアレウトスカヤ街終端警察
 病院向側地區ニ建築スルコトニ關シテハ別段
 異議無之候但シ前記教務所申出ノ條件
 即チ布教所用敷地ハ同敷地ノ傾斜面ト盲
 塚ヲ以テホクロスカヤ寺院ヨリ同布教所建
 物カ全然見ヘサル様ニシテ且ツ可成速ニ樹木ヲ
 植込ムニ足ル丈ノ地面ヲ建物ヨリ隔テ割異
 スルコトハ是非遵守セシメ度尚ホ以外布教所
 入口ハホクロスカヤ寺院側ニ設ケス又建物ハ
 浦潮教務所ノ承諾セル別添圖面ノ通り建
 築セシムル事モ必要條件ト致度候右條件
 ヲ確實ニ實行セシムル方メ市ノ技師ヲ以テ
 充分監督セシメテ候様希望致候
 右ハ布教所敷地ニ關シ申進メタル次第ニ有之
 尚ホ同布教所ノ設計ニ關シテハ當該法規ニ
 基キ其一般家屋トシテノ技術上ノ点ヲ查沿
 海州廳建築課ニ於テ審査シテ而シテ本官
 ノ認可ヲ經タル上建築ニ着手シ得ヘキ次
 第ニ付右様申承方相成度候段申進候也

一九〇五年四月八日

軍務知事陸軍中將 スターエフスキー 自署

大正四年五月廿七日記録第二部控室

在浦潮日本總領事館

高級参事官

スハコフ

自署

浦潮斯徳市々長殿

原本ト相違ナシ

書記。ペト。ド。フ。コ。ヌ。ク。オ。フ。自署

第三。八。二。號

沿海州軍務分事来翰写中参考迄茲ニ及
巾送付候

一九一五年四月十三日

市會議員。ヘ。リ。エ。ー。ン。自署

書記 某 自署

大正四年五月廿七日記録第十部拜受

在浦潮日本總領事館

フオニタニヤ街ノ三八番地

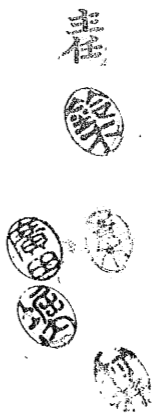
右田覺眠殿

文書課長

大正四年五月廿五日 同 年 月 日 附

送第 辦

主 管 通 商 局 長



半 官 費

真宗寺新古流管長宛

〆〆〆〆〆

浦潮新流に於ては新古流管長宛に
地に於ては〆〆〆〆〆

浦潮新流に於ては新古流管長宛に

大正四年五月廿七日記録第二部接受

外務省

浦地回送の事〆〆〆〆〆

浦地回送の事〆〆〆〆〆

浦地回送の事〆〆〆〆〆

浦地回送の事〆〆〆〆〆

浦地回送の事〆〆〆〆〆

浦地回送の事〆〆〆〆〆



拜啓

2/19

愈々少康と進存生庭度致下當地中領事布
 技場敷地故障ノ件ニ関シ小生仔有之旨願シ高
 慮ヲ煩ヒセシヨリ已ニ五年ノ間絶ヘズ付居有之旨
 有之交渉致シテトモ常ニ不得要領ノ件ニ付迄未
 リシガ昨昨已未更ニ多ク交渉ヲ開キ総督ヲ俾テ故
 障ノ根元ニ至ル要度及層層ヲ差詰セシメ愈
 軍務知事ヲ確認ノ書面ヲ受領セシメ付キ外
 控中ノ前法主ヲ請シテ起式ヲ奉行シ敷地確
 定セテ内外人ノ奔奔表致、多年仔有之旨進
 然其概申付、段々改善ノ事ヲ承知シテ今モ成功ノ
 解決アリヤ中ノ事ハ未ダトモ付合ハ有
 ノ外交ヨリ生セシ日々親善ノ賜物ト深ク感謝
 致シ付件ニ関シテハ即由領事ト事毎ニ親切ノ尽力
 致シラレ候付各園長ニ此感謝致申付事付ノ詳
 細領事ヲ以テ報告可方ニ付生モ河ノ帰船ノ節
 有之旨挨拶可申付テ今モ取敢ハ禮止右申
 進ハ何卒大臣閣下ニ宜敷上申付テ今モ在候
 ニ申入、敬具

大正四年二月十九日

東海中領事ニハ多謝

大田虎次郎

及田局長閣下



電信課長 一五

大臣 了 幸外

次官 十 五

酒湖 大正五年十二月十七日 辰四〇一
幸祐著

酒湖 本朝寺 太田 寛 賦

政務 外務大臣 子爵 本野 一郎 殿

通商 廣田 鈞 殿

人事 多年 難問 ヲ 極 ノ 敷 地 ノ 交渉 ヲ 解決 シ テ 布

會計 教 所 ヲ 建築 シ 本 日 落成 式 ヲ 挙 グ ル 際 於 外

文書 文 ノ 御 保護 ヲ 感謝 ス

第 九 類
第 一 〇 号
參政官
副參政官

大正五年三月十六日記録第二部接受